

老人ホーム 木曾寮だより

第 74 号

年2回発行
木曾広域連合
介護老人ホーム
木 曾 寮
TEL 0264-52-2054
FAX 0264-52-2934
E-Mail: kisoryou@kisoji.com

昔の思い出

奥谷 忠 夫

私が小学校に入る時は、七歳で入って「ハナ・ハト」と先生から教えてもらいました。

勉強道具は今の様にカバンがなかったので、風呂敷に包んで持って行きました。私は風邪に弱く、よく母が背負って一時間ほどかけて学校まで行ってくれました。

そのおかげで六年間休まず行くことができ、皆勤賞を貰うことができました。

高等科の時は、菅や小木曾（木祖村）の人も来て、機関車を見て珍しがっておりました。

朝、新聞配達をしてから学校へ行っていましたので

いつも5分位は遅刻し、静かに後ろの方から教室へ入っていました。

高等科卒業後は味噌川の奥の事務所へ仕事に行きました。

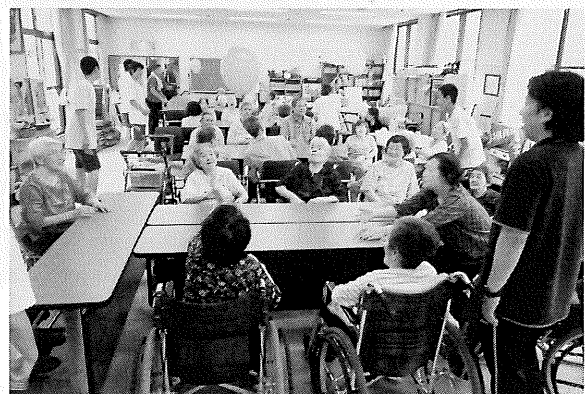
始めは先輩に仕事を色々教えてもらい、そのうちに一週間に一日休みがもらえ、青年学校へ通う事ができ、兵隊のように訓練をしました。

仕事は、雪が降っても休まず行っているうちに「リュウマチ」になってしまいました。そのため、町裏の機関庫の方へ回してもらい一生懸命働きました。

現在満九十歳になります。が今の世の中を見ると色々便利なになり、昔は苦労したものだと思えます。



折り紙教室



福島中学生福祉体験

新天地 木曾寮

支援員 半場 千恵美

昨年の八月から、木曾寮で勤務させて頂くことになり、八ヶ月経ちました。

年を重ねてからの転職でしたが先輩方の助けを頂きながら、何とかそれらしくなってきたのではないかと、勝手な推測をしております。

木曾寮への就職を希望した決め手は、職員間の関係性です。実際、勤務してみてもそれぞれが自分の考えを伝えられる環境であると感じています。若くても、経験が短くてもその意見を受け入れ検討していこうという考え方が、周囲の年長者の中にあり、他の職員の手本になっている様に思えます。

木曾寮は長い歴史がありますが、入居されている利用者様の中にも、ここで長く暮らしておられる方がみえます。